仁堀地区概況

岡山県赤磐市仁堀地区には7つの自治会（集落）があり、一つの行政村を形成していました。かつては2,500人が生活する村でしたが、1945年をピークにその後は人口が減り続けています。吉井町編入（1956）、赤磐市（2005）と町制、市制へと移り変わっても、その流れを断ち切ることはできませんでした。2020年の人口は約900人で、2040年には400人程度になると予想されています。

グラフ　仁堀地域の人口動態（出典/赤磐市HPより）

直近5年は
年間30人以上減

NPO法人 まちづくり 夢百笑

2013年、まちづくり夢百笑運営協議会としてスタート。
2016年 NPO法人化。同時に見守りを兼ねた移動販売を開始。
赤磐市仁堀地区の人口減少や、唯一の商業施設の閉店という地域存続の危機に際し、地域を守っていこうと住民有志らで出資し、設立された。現在、地域の商業福祉拠点として活動中。

小学校は児童数が32人。
2019年度は3人も児童数が増えたと校長先生が大喜び。

山里・未来プロジェクトの情報は
Facebookでご確認いただけます。

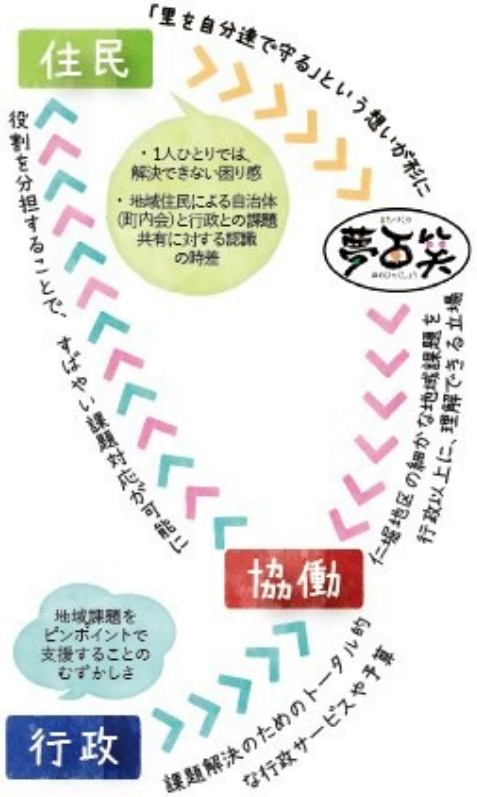
◆新しい働き方-クラウドソーシング事業
※このアクションプランは、赤磐市が推進している新しい働き方、クラウドソーシングの取り組みに参加した受講生が制作しました。

山里・未来プロジェクト アクションプランのねらい

「まちづくり夢百笑」が地域で、住民と育んできた存続できる地域づくり。これまでの活動を元に、2019年度から、岡山県備前県民局や行政、大学、NPO、民間企業等との協働事業として本格的に取り組んでいくこととしました。このアクションプランでは、計画期間中に、地域存続に必要な課題解決のために、住民間での「課題共有」、「価値づけ」「仕組み・枠組みづくり」と3つの段階を踏みながら解決へつなげます。「まちづくり夢百笑」を中心とした「小さな拠点づくり」の実現と、そこからの情報発信と他の地域とのネットワークづくりの実現と充実をねらいとしています。

地域課題と住民主体の協働

協働は目的に合わせて柔軟に対応でき、互いの強みを活かすことのできる対等で心強いパートナーシップです。
まちづくり夢百笑と住民による地域の課題解決に向けた長年の取り組みは、行政との協働により、めざましく動き出しました。自己の利益のためではなく地域存続のために、住民が地域自治の一助を担っていることを誇りに感じています。



令和元年度 備前県民局協働による地域づくり事業

山里・未来プロジェクト
～未来へつなげる知恵を求めて～
アクションプラン

山里・未来プロジェクトアクションプランとは

「山里・未来プロジェクト」とは、NPO法人「まちづくり夢百笑」が地域住民による自治体と岡山県備前県民局や行政、大学、NPO、民間企業等と推し進める協働事業です。このアクションプランは、山里の人口減少の解決課題である「仕事」「移動手段」「子育て」を「地域起こし」「地域興し」「地域づくり」の3つのステップで解決へつなげていくものです。これらの課題を解決することは、地域の移住促進につながるという好循環を作り出します。地域消滅の直接の原因である、人が定住できない課題の解決に向けて、それぞれの取組み項目を定めた令和元年度から令和5年度までの5年間の計画です。また、毎年度進捗状況を確認し、必要に応じて取組内容の見直しや改善を行います。

NPO法人 まちづくり 夢百笑
TEL 086-958-9008
赤磐市仁堀中 1684-1

山里・未来プロジェクト
～未来へつなげる知恵を求めて～
アクションプラン

地域課題に関わる調査・会合、セミナーの開催

30年後も生き残っていける地域づくりを目指し、地域住民のための「地域再生講座」「地域創生講座」を開催。学びの中から、課題を確認し、共有することを目標とする。

学びの場～住民の気づき～

地域起こし

地域づくり自主活動の促進（意識づけ）

1. 課題解決プログラムの実施（住民中心の取り組みへ）

- 地域づくりに必要な新しいツールを体験してもらえるイベントの開催
- 赤磐市の魅力を知ってもらうためのイベントづくり
- 他地域と協力して小規模な地域づくりフォーラムの開催

2. 課題深掘りプログラムの実施

- 課題対策ワーキンググループの設置及び育成
- 協力団体と連携したセミナー、調査、視察、話し合い広場の開催

→ 住民主催のイベントによる地域の主体意識と行動力のアップ

地域興し

「地方の住み辛さの解消」（価値づけ）

- 協同労働等の仕組みを活用した地域内での仕事おこし
- 子育て世代の負担を軽減する子育て支援
- 高齢者や子どもが安心して暮らせる地域内外の移動手段の整備
- 暮らしに潤いを与える住民交流の場の拡大
- 子どものやりたいことを実現できる地域づくり
- 地元の大学との協働の試みと、学生のマンパワーを借りた課題解決
- 地域に外から働きに来る人達との協力体制の拡大（学校など教育機関との連携）
- 住民負担を減らすためのシンプルな制度設計と地域づくり
- 同じ悩みを持つ地域・助け手となり得る近隣の地域に向けて情報発信・世代間交流によるネットワーク作り

→ 地域内外の交流拠点となり集落と連携を生む場として

地域づくり

「地域存続を実現する地域運営団体の組織化」（仕組み・枠組みづくり）

- 地域の全住民を対象とした福祉支援と総合福祉拠点の設置
- 商業福祉視点による福祉サービスの強化
- 福祉商業ネットワークを活用した住民支援サービスの拡充
- 町内会等の自治会と協力し、移住定住者にも負担が少ない地域システムの構築
- 地域資源を活用した地場産業の創出による地域経済力の強化
- 子育て世代等の若年者に対応した生活基盤の充実と社会インフラの整備
- 社会減、自然減を下げ止め、集落維持を可能にする緩やかな社会増を実現

→「小さな拠点」による人・支援の輪（和）の拡充、存続できる地域づくりへ

地域消滅の直接の原因となる人が定住できない3つの課題と目標

1 仕事

若い世代が地元で働けないのは、年齢やスキルに合った仕事がないから。

働く場所への移動時間、生活コストや、地域活動の負担が増える。地域から離れてしまう。

地産品・観光資源の魅力発掘と仕事の創出。それぞれの世代の得意を持ち寄ることで、個人の負担を軽減。

地域資源による産業と地域経済力の強化

移動手段 2

次世代の移動手段の実現に向けたアクション

1日に片道7本のバスのみ。公共の移動手段が少ないことに、世代を超えた困り感がある。

住民主体で、地域のニーズにあった通所付添サポートの形を作るために、専門家を交えて考える場づくりとフォロー。

モビリティ財団へのアプローチ等、多様な移動手段を求めていく。

3 子育て

若年者の生活基盤の充実に向けて

山里特有の時間制約が、ゆとりある子育てをむずかしくしている。

保育園は1歳から。小中学校は、スクールバスの送迎時間に合わせた生活に。最寄りに高校がなく、子どもの成長と共に送迎問題が深刻化する。

仕事、移動手段の解決がゆとりある子育てにつながるという共通認識を広げる。地域で子育てを応援する。

輪（和）から生まれる小さな拠点による
仕事・移動手段・子育ての支援
存続できる地域づくり

小さな拠点「まちづくり夢百笑」による場づくりやアクションが、きっかけの輪（和）を広げる交流の場・語らいの機会

移動カフェ
通所付添
移動販売

学び合い
イベント
情報発信

地域を維持できる人口水準を保つために

地域が30年後も生き残るための緩やかな人口増に向けて

協力団体との輪（和）

地域だけで解決できることは少なく、地域存続への思いに共感してくれる協力者の存在は大きい。個人はもちろんのこと、行政や大学等の学術研究機関、NPO法人、民間企業、地元の子ども達が通う保育園・小中学校等の協力団体との連携により生まれた成果は、共有しあう。
協力団体との絆を深め、よりいっそうこの輪（和）を広げていく。